



宇都宮クリテリウム
優勝の瞬間。
「ツール・ド・とちぎ」
でもこの感激を!
(photo(C):Tatsuya Sakamoto/STUDIO)

特集
自転車と
地域活性化

自転車のまちが熱い! 競技イベント・まちづくり・地域貢献

「自転車のまち」を掲げる宇都宮市だけでなく、県内全域で自転車への注目が高まりつつあります。今回は、来年開催予定の自転車レース「ツール・ド・とちぎ」の詳細や、宇都宮市のまちづくり、そしてプロロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」の地域貢献活動についてお伝えします。



NPO法人ツール・ド・とちぎの会
事務局長
神戸 英樹氏

NPO法人ツール・ド・とちぎの会
理事長
喜谷 辰夫氏

01 ツール・ド・とちぎの

実現に向け取組中!

「栃木県全域を舞台とした自転車のロードレースを実現させよう!」

地域の熱い思いが、いよいよ形になるうとしていきます。「ツール・ド・とちぎ」と銘打たれた、全国でもあまり例を見ない自転車ロードレースが、来年3月〜4月にかけて、栃木県内18市町をコースとして開催に向け取組中です。

今、実現に向けて最終コーナーを回ろうとしているこの大レース。中心になっているのは「NPO法人ツール・ド・とちぎの会」のみさんです。

同会理事長を務めるのは、当所常議員

でもあるトヨタカラー栃木(株)の喜谷辰夫社長です。

「私は学生の頃から自転車好きで、友人や愛好家の方々と、よくサイクリングに出かけていたんです。自転車仲間や自転車関係者から『ジャパンカップや宇都宮クリテリウムなど、大きな大会が開催されて、自転車人口も増えてきた。もう一つ、大きな自転車イベントが欲しい』という話が出ていました」

そんな中「やるなら、日本ではあまり例の無いラインレース(A地点からB地点をめざすスタイルのロードレース)を」と

具体的な構想が始め、行政からも非公式ながら「民間主体であれば支援します」という話ももらうことができました。

「それで『じゃあ、やろう』といううことになって、5日間かけて750キロ、栃木県の全自治体を回る構想が生まれ、動き始めました」

平成26年秋、NPO法人を発足。計画をさらに煮詰め、また国内のレースを主催する日本自転車競技連盟(JCF)との連携もとるなど、実現に向けた努力が本格的にスタートしました。

今年1月には栃木県や県内自治体、経済団体、報道機関などによる実行委員会も結成されました。4月1日から事務局長に神戸英樹さんが就任し、いよいよ「ツールとちぎ体制」が本格化しています。

とちぎを満喫できるコース設定

神戸事務局長に今回のレースの概要をうかがいました。

「第1回は、平成29年3月31日(金)から4月2日(日)の3日間で、18市町を巡ります(コースは地図参照)。走行距離は、合計で約400kmです。国際自転車競技連盟(UCI)公認とし、国内だけでなく海外からの参加者も想定されています」

こういった本格的なラインレースは、国内では他にあまり例がないそうです。「自転車レースの本場、ヨーロッパでは、レースの多くはラインレースです。その最高峰が『ツール・ド・フランス』という有名な大会です。日本では、宇都宮市で開催されている『ジャパンカップ』のように、一定のコースを周回するレースがほとんどですから、『ツール・ド・とちぎ』は全国的

に数少ない本格的なラインレースとなるのではないのでしょうか」

それだけに、関係者の苦勞も多々ありました。コースの選定にしても、ただ走ることができればいいというものではなく、市街地ではどうするか、アップダウンによる起伏をどのくらい入れるか、できるだけ美しい自然を味わってもらうにはどうしたらいいかなど、さまざまな要素を考慮しながら、何度も現地に足を運び、メンバーが走つてみたりしながら、時間をかけて作りあげていったそうです。

「栃木県は美しい自然も多く、地形は起伏に富んでいますから、こういったロードレースには最適なんです。一流アスリートが栃木の風景の中を競つて疾走する姿は、きつすばらしい光景だと思います」

当初は5日間で県内全域を回る計画でしたが、初めての試みでもあり、日程を3日間に短縮。2年がかりでの全自治体周回に変更しました。コースの細目は現在調整中ですが、平成29年開催の大まかなコースは次のとおりです。

第1ステージ

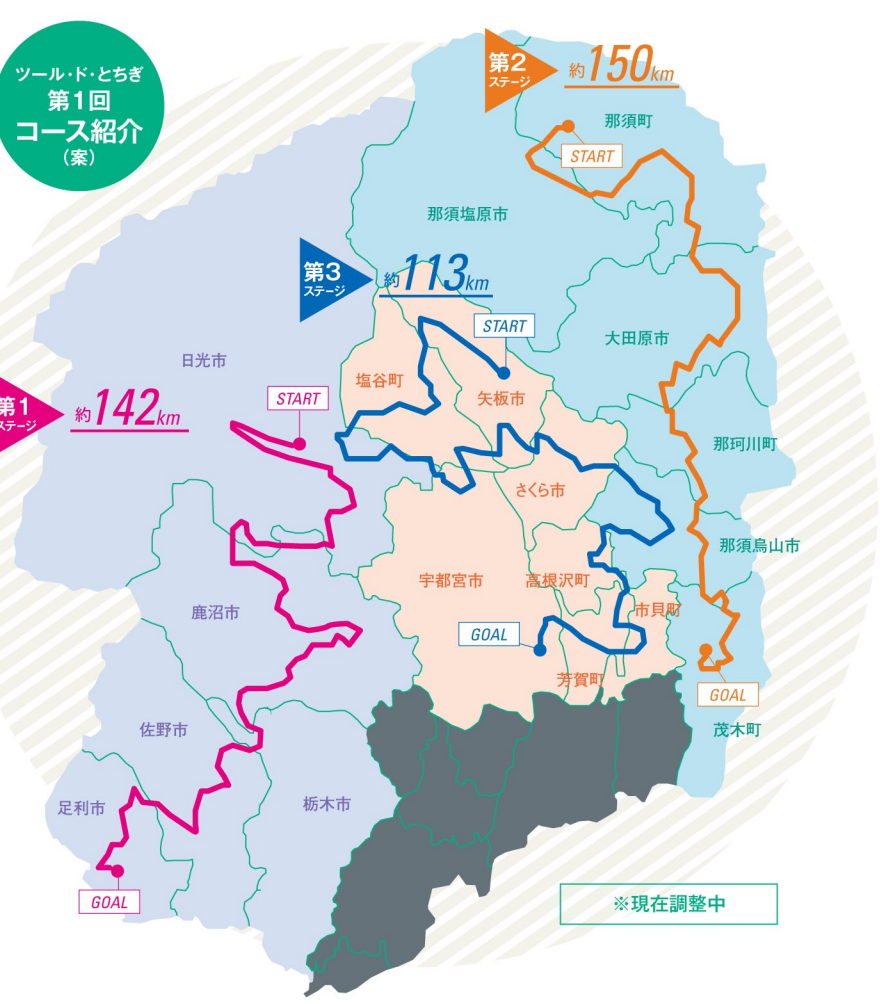
日光だいや川公園〜足利市総合運動公園
(日光市→鹿沼市→栃木市→佐野市→足利市)

第2ステージ

グリーンパークもてぎ〜道の駅那須高原友愛の森
(茂木町→那須烏山市→那珂川町→大田原市→那須町→那須塩原市→那須町)

これだけの地域を通過するとすれば、これを地域おこしに活用しない手はありません。

「私たちの狙いのひとつが、まさに地域活性化への活用です。今後、地元の方々とさまざまなアイデアを出し合つて、できるだけこのレースを活用していただけるよう、工夫していくつもりです」(喜谷理事長)



ツール・ド・とちぎ
第1回
コース紹介
(案)

第3ステージ

矢板市役所〜清原中央公園
(矢板市→塩谷町→日光市→宇都宮市→塩谷町→矢板市→さくら市→那須烏山市→市貝町→芳賀町→宇都宮市)

「出発地点、到着地点の自治体だけでなく、通過地点でもいろいろな取り組みが可能なだと思っています。本場の『ツール・ド・フランス』では、観客が沿道で声援を送りつつ、ピクニックを楽しんでいます。ああいった楽しみ方も、ぜひ提案していきたいですね」(神戸事務局長)

大会をビジネスチャンスに

開催予定日の少し前に、台湾で大きなレースがあり、一流アスリートたちが集まつて技を競つているそうです。喜谷理事長は「そういった方々を、私どものレースに参加して

いただけるよう、働きかけする予定です。『ジャパンカップやクリテリウムの開催で、宇都宮市民の皆さんには自転車の魅力が浸透しつつあります。見るだけでなく、サイクリングなども多くの人が楽しむようになりそうです。『ツール・ド・とちぎ』を成功させて、県全体に自転車の魅力を伝えたいですね。また、大会が盛り上がりれば、他県からサイクリングを楽しむに來る人たちも、きつと増えると思います。ですから一過性のもではなく、通年で観光客を招く効果も期待できます」

観光業だけでなく商業全体にとつて、ビジネスチャンスにつながる可能性があります。国内だけでなく、海外からの注目も期待できる「ツール・ド・とちぎ」。毎年継続して開催することで、地元にも自転車ファンにもより魅力的にしたいと夢は膨らんでいます。会員企業の皆さまにも、ビジネスにつながるきっかけがありそうなイベントを、ぜひ応援してください。

問合せ
特定非営利活動法人
ツール・ド・とちぎの会事務局
宇都宮市馬場通り4-2-19
トキースクエア2F
☎028-680-6860
☎028-680-6970

「サイクルシティうつのみや」が街を変える！



JR宇都宮駅西口の宮サイクルステーション

宇都宮市は自転車を生かしたまちづくりに力を入れています。そこで「宇都宮市自転車のまち推進計画」について、宇都宮市建設部道路建設課サイクルシティ推進グループの田崎和則係長と平原健吉主任主事に取材しました。



「市街地を中心に平坦地が広がっていること、雨量が比較的少ないこと、冬の日照時間が長いこと、道路環境の整備が充実していること」の4つのポイントが、宇都宮市が自転車のまちとしてふさわしい理由です。

それを裏付けるのが、通勤通学時の自転車利用の多さです。特に、市内の高校に通学する生徒の約8割が自転車を利用しています。つまり、宇都宮市はすでに自転車のまち——ということなのでしょう。確かに、実感としても、自転車で走っている人は多いように感じます。また近年は一般の利用だけでなく、スポーツバイクで走っている人を見かけるようになってきました。

「そうなんです。サイクルスポーツも、盛んなんですね。これは、例えばジャパンカップや、城址公園でのシクロクロス、清原地区での宇都宮クリテリウムなど、大きな



市街地の道路に整備された、自転車専用通行帯の表示

サイクルイベントがあることも、影響しているのではないのでしょうか。また、宇都宮ブリッセンというプロスポーツチームも活躍していますから、自転車全般に対する興味も高いですね。アマチュアでは作新学院高等学校の自転車競技部が毎年好成績を取っています。」

こうした土壌の上で、推進計画が策定されました。そのポイントは？

- 地球温暖化対策の推進
- スポーツ環境活動の充実
- 健康づくりの推進
- 観光資源の活用推進

前期計画のポイントは4つ

では、具体的な計画の内容について、平原主任主事にうかがいます。「第一の目標は「安全」です。誰もが安全に自転車を使えるまちづくりです。最も分かりやすいのは、道路に青い色の表



宇都宮市建設部道路建設課サイクルシティ推進グループ、田崎和則係長(右)・平原健吉主任主事(左)

◎ 自転車と公共交通がつながることで自転車利用の拡大を図る
◎ 都市や観光地が自転車であがり、広域的に周遊できる環境づくりを推進する
この2つのポイントを掲げています。5年間の前期計画の実施の中で、いくつかの課題も浮かび上がってきました。これらをもとに従来の4つの目標に、新たな取り組みを加えた上で、さらにより高度な目標「つながる」が設定されました。

「例えば、自転車専用通行帯により安全な区間は多くなりましたが、一方で交差点などでの事故もあります。また自転車人口が増えるに従い、三列四列もの並列走行など、マナーの問題もあります。また、長距離サイクリングを行う人が多いことも分かり、連続的で快適な走行環境の整備も不可欠だと考えています。こうした課題を、後期計画で克服しつつ、さらに公共交通との連携強化や、自転車を利した広域観光の促進などを位置づけました」

後期計画は単に前期計画の継承ではなく、前期を踏まえた上で、より一層の「自転車のまち」を推進するためのものだということが分かります。

平原主任主事は、「中心市街地では放置自転車対策の強化や駐輪環境の充実をめざしています(「快適」)。また、ジャパ



スポーツバイクが駐められるラック

行政による、こうした「自転車のまち」への取り組みが、新たなビジネスチャンスにつながることは、言うまでもありません。すでに、これまでの自転車店とは違う形態の「スポーツサイクルショップ」も市内あちこちに店舗を構え、新たなビジネスとして力をつけています。また、自転車人口が増えることで、それに対するサービスや商品構成を充実させれば、そこから新たな顧客開拓につながることもできるでしょう。街のあり方が変われば、ビジネスのあり方も変わります。健康やレジャーで自転車を体験し、そこから新しいビジネスについて考えてみるきっかけにしてみてください。

問合せ
宇都宮市建設部
道路建設課サイクルシティ
推進グループ
☎028-632-5322



公共交通と連携した駐輪場(写真は瑞穂野団地/バス停)

今年度からは、後期計画がスタートしました。5年間を期間とするこの計画では、前期計画の4つの目標を継続しつつ、さらに新たなキーワードが加わっています。それが「つながる」です。田崎係長に「つながる」とは何を意味するのか、うかがいました。「『つながる』とは「誰もが自転車であがり、利用できる」ことです。『自転車のまち宇都宮』を実現するために、さまざまなものをネットワーク化しながら相乗効果を高めていくという考えです。

「走れば愉快だ宇都宮」のロゴマーク、皆さんも見かけたことがあるでしょう。これは宇都宮市が定めた「宇都宮市自転車のまち推進計画」のロゴマークです。計画がめざすのは「サイクルシティ」の実現です。平成22(2010)年に前期計画が策定、実施されました。その中心テーマは「だれもが安全で快適に楽しく自転車を利用できる」宇都宮の実現でした。田崎係長に、なぜ「自転車のまち」なのか、うかがいました。

施設やコンビニエンスストアを中心に設置してきたところであり、さらなる利用環境の向上にあたり、飲食店などの協力をいただき、設置施設の拡大に取り組んでいるところだ。バス停周辺の駐輪場は、通勤通学のために好評です。これによって、自宅から駅までが遠いなどの理由で従来は自動車通勤だった人も、公共交通の利用にシフトしています。

「第三の目標『楽しく』は、観光やスポーツで、誰もが楽しく自転車を使えるまちづくりです。観光やスポーツの推進ですね。JR宇都宮駅西口に自転車の利用促進の拠点施設として「宮サイクルステーション」を整備したり、観光地を巡るサイクリングルートを記載した自転車マップの作成などを行いました。自転車マップも人気があり、現行バージョンはほぼ在庫が無いそうです。現在はよりパワーアップしたマップを作成中とのこと。自転車ファンは期待して待っています。」「そして第四の目標が『健康とエコ』。誰もが健康でエコな生活のために自転車を使えるまちづくりです。もちろん、他の目標を達成させることでこの目標も達成できるわけですが、宇都宮市内の企業の従業員の皆さまに通勤時の自転車利用を働きかけ、その効果を実証するために、今後、自転車モニター事業を実施していきます」



ジャパンカップクリテリウムの開催が自転車競技への注目を集めました
(photo(C):Tatsuya.Sakamoto/STUDIO)

03

宇都宮ブリッツェンが自転車の 楽しさを伝える地域貢献活動

平成21(2009)年のチーム結成以来、宇都宮市の自転車ロードレースチームとして全国で活躍する「宇都宮ブリッツェン」。全国初の地域密着型プロロードレースチームとして、地域貢献活動にも熱心に取り組んでいます。その活動の一端をご紹介します。

心な地域貢献活動にあるといっても過言ではないでしょう。ファンは、たとえ勝てなくても、身近に感じられる選手やチームは熱心に応援するものです。宇都宮ブリッツェンは、そんなファンの期待に、結成当初から積極的に応えてきました。まさに「郷土のプロスポーツチーム」といえます。

サイクルスポーツマネージメント(株)の柿沼章社長は「ブリッツェンのチーム理念は『自転車ロードレース活動並びに自転車を主としたスポーツ教育活動を行う地域密着型自転車ロードレースチーム』です」と話します。チームのDNAに、最初から地域貢献が組み込まれているのです。こうした地域密着型プロチームは、自転車競技の世界では日本初ということ。

「私どもの会社の業務も、ブリッツェンというチームやそこに在籍する選手を育て、世界で戦うことができるレベルをめざすこととともに、日本におけるロードレース全体のレベルアップや知名度向上などに取り組んでいます。もちろん、社会貢献活動も大きな業務の一つです。こうした我々の

活動は、地域のスポンサー企業の皆さまに支えられています」
1チームの運営だけでなく、広い視野と活動内容を持った、地域密着型企業と呼んでいいでしょう。

サイクルイベントや自転車安全教室

では、具体的にはどのような地域貢献活動を実施しているのでしょうか。主なものに絞って、柿沼社長に教えていただきました。

①サイクルイベントの開催

「栃木県内外で、自転車スポーツの楽しさを味わっていただけるサイクルイベントを開催しています。主催だけでなく、ゲストとして参加することもあります。平成27年度には、4月の宇都宮サイクルピクニックなど10のサイクルイベントを主催したり、参加したりしています」

サイクルイベントにはさまざまなスタイルがありますが、いずれも「参加して楽しむ」ことを目指しています。主催だけでなく、ゲストとして参加することもありますが、ゲストとして参加することもありませんし、サイクルイベントも参加人数が増えているのです。

「私たちは、皆さんのご支援のおかげで、優勝争いのできるチームに育つことができました。チームに入りたいという選手も増えてきています。その恩返しに気持ちもこめて、一生懸命やらせていただいています」
人気が出ることにより「多くの人に見られている、がんばらなければ」というモチベーション向上につながり、それが良い結果をもたらしているそうです。

さらに、チームに在籍した選手が他のチームでさらに活躍したり、自分でチームを組んでがんばったりしているケースもあり、ブリッツェン人脈は日本の自転車競技界で大きく育ちつつあります。

2016シーズンの目標をうかがうと、柿沼社長は、「まず、何といっても我々が主戦場にするJプロツアーでの優勝ですね。お陰さまで3月20日に宇都宮市清原工業団地で開催された「Jプロツアー開幕戦 宇都宮クリテリウム」では鈴木譲選手が優勝を飾ってくれて、非常に良い形でシーズンができました。年間総合優勝も奪還して、ファンの皆さまやスポンサー企業の皆さまに良い報告がしたいです。

また、毎年10月に地元宇都宮市で開催される国際レース「ジャパンカップ」では、表彰台にのぼりた



宇都宮ブリッツェン運営会社
サイクルスポーツマネージメント(株)
社長 柿沼 章氏

める「「見て楽しめる」ものがほとんど。市民と選手が一緒になって走り、自転車や自然のすばらしさを満喫できるものが多くあります。地域活性化だけでなく、県外からの観光客誘致にも役立っています」
「サイクルピクニックは人気がありますね。栃木県内はサイクリングには適した場所が多いので、これからも可能なかぎり回数を重ね、より多くの人にその楽しさを知っていただけたらと思っています」
ここ数年、県内でもサイクルイベントが増えてきました。これも、宇都宮ブリッツェン効果と言えるかも知れませんね。皆さんもぜひ、機会があれば参加して、楽しい汗をかいてみませんか？

②自転車教室の開催
「自転車は手軽な乗り物ですが、道路交通法上での「車両」としての位置づけと、実際の日常における自転車の捉え方に、まだまだギャップがあるのが実情です。それは、自転車に乗る人だけの問題ではなく、ドライバーや歩行者まで含めた社

会全体で考えるべき事だと思っています」
現在は人気マンガ「弱虫ペダル」とのコラボレーションによる自転車安全教室を開催している、宇都宮ブリッツェン。平成27年度には宇都宮市を中心に県内各地で、合計19回開催しています。対象は小学生から高校生までさまざま。これまでに幼稚園児を対象とした教室開催もあったそうです。選手も必ず1〜2人が参加するので、それも人気の秘密かも知れません。

内容はもちろん自転車の安全な乗り方が中心ですが、そこはもちろんブリッツェン主催ですから「楽しく乗る」「かっこよく乗る」なども教えています。というよりも「楽しくかっこよく乗るためには、安全に注意することが不可欠」という発想で教えているからこそ、ふつうの安全教室とは

※ワイラースクール…ベルギーで作られた自転車乗車技術向上のための教材。宇都宮ブリッツェンは、ワイラースクールジャパン(代表…中島隆章氏)より認定された活動。



はつらつとレースにのぞむ宇都宮ブリッツェンの選手たち
(photo(C):Tatsuya.Sakamoto/STUDIO)



自転車を楽しく乗りこなすための「ブリッツェン自転車安全教室」

主な貢献事業2つに絞ってご紹介しましたが、もちろん他にもさまざまな活動を行っている「宇都宮ブリッツェン」。「ワイラースクール」という自転車スキル向上の教室も開催しています。プロ活動を行っている宇都宮ブリッツェンに指導してもらえるとあって、こちらも人気が高いようです。
今年からは交通安全マナーを呼びかける電柱広告を始める予定とのこと。
「それから、清掃サイクリングも始めようと考え準備をしているところです。サイクリングに行った先で清掃活動をするというコンセプトです」
いろいろな社会貢献活動を行っています。その中心にあるのは「自転車の楽しさを伝えたい」という想いです。これを忘れないからこそ、ともしれば面倒だけれどしか

問合せ
サイクルスポーツ
マネージメント株式会社
栃木県宇都宮市埴田2-1-6
You'sビル 2F
☎028-643-6626
http://www.blitzen.co.jp